

中央大学学術シンポジウム研究叢書

3. 『現代社会における倫理の諸相』

2003年3月31日発行

第18回中央大学学術シンポジウム研究叢書編集委員会編 中央大学出版部発行

定価：本体 5,100円（税別）

ISBN 978-4-8057-6145-8

目次	
まえがき	
本書の紹介	
第18回中央大学学術シンポジウム趣意書	
第1章 日本社会における「いのち」と「こころ」	
生命（いのち）の世紀の課題 —「いのちの大切さ」と理性的生命観の形成をめざして—	甲斐 義幸
倫理の深層・こころの危機	舟橋 一郎
第2章 「善への問い」とさまざまな応答	
価値を現す言葉の系譜と「生きる力」	野崎 守英
寓話「エゴマニア」、あるいは倫理的閉塞の現状	小菅 奎申
心理学研究における倫理 —研究者と協力者との関係から考える—	都筑 学
グローバル市民社会と倫理 —共通の基盤を求めて—	サドリア・モジュタバ
人間本性と善 —M・ヌスバウムによるアリストテレス的本質主義の擁護—	土橋 茂樹
第3章 環境、開発、自然の権利	
環境倫理の原則的な諸問題	古田 裕清
「持続可能な開発」と環境倫理	西海 真樹
地域自主アセスメントによる環境保全対策	上田平三郎
第4章 公正な競争と企業経営	
EU競争法における制裁金制度	金井 貴嗣
企業倫理を中心とした信頼される企業経営	高橋 弘之
あとがき	